

昭和18年4月1日（木）

切手類請求千四百円を超過す。払込みにはミワさんに行
って貰ふ。受取りには小母車に坊を入れ、11時半出掛く。
泥溝から突然大鼠飛び出し、田渋醤油屋に奔（はし）り
し目的らしく、小徑（こみち）を横切る際、車輪に触れ往
生せり。葉書八千の内四千、及び封緘往復各百枚と切
手類とを風呂敷に包み、小母車はミワさんに。蒔菫草等
求め、之を福岡に贈る心組みらし。道子よりの手紙に、
先月分給料は送付越されしも、今月よりは停止さるるや
も知れぬとあり。囑託として採用せし会社としては当然と
思はる。道子も覚悟し居るとありし。室内は猶冷ゆ。曇
天。此夜も坊や乳首不明、10時まで眠らず。

昭和18年4月2日（金）

晴れ。不相変、炬燵す。昨夜遅く坊睡り、今朝割合早く
起きたり。ミワさん1時過ぎまで報告物の為に起きて居ら
る。坊、枕許にウンコし頭髪に幾分附着しあり。ウンコし
再び炬燵にもぐり込みしらし。巖来たり。婚礼、12日午
後1時と確定したらし。福岡に誰か来て呉れるよう通知頼
むと申出づ。先方より十名来ると云ふ。午後より調髪師
来たり。ミワさん髪を結ふて去る。坊や理髪、前田さん
連れ加勢さる。午後より小包梱包。蒔菫草、ワカメ、蒲
鉾二本等送料40銭。終便に間に合わせ発送。森田さん
亡夫墓参の為、大分に赴かる。其の為、勤務時間を伊
勢さんと代わって貰ふ。午後5時前より飯炊き、お握りさ
る。余に浅草海苔で包んで呉れるよう申出らる。坊の分
は別に小さく握らる。菟蓐、里芋、蓮根、人参にて、煮
しめを作らる。6時半より夕食。7時10分頃、迎えに見え
し信徒の方と出掛けらる。余鞆を提げ駅まで行きしも、

列車の着駅を俟たで飯局。誰も居らぬので物騒と感じたる為なり。定時発車したるらし。坊やはミワさん負はる。乳首は葉種屋より15銭にて求めらる。坊や負はるるを、余に振換えを要求して泣く。林檎一ヶ頂く。鍋釜、飯椀類を其の儘、後始末する暇なく11時就床。

昭和18年4月3日（土）

神武天皇祭。曇天。10時頃より旗を掲揚す。汚れ物及び掃除を終へたる後とて時間かかる。蒨葎草18にて山本より夕方求め、残りの汁にて煮る。飯は粥の残り等を煮直して頂く。栄町長より電話。志願者の父、承諾せりと云ふ。ラードを舐めし為下痢す。殿畑より請求あり。将来を注意して渡す。4時頃より降雨、夜に至り衰えず。道子森田氏に葉書を認む。森田氏よりは昭子さんの入学を知らせて来たるも、こちらこそ祝意を表するが順序なりし。

昭和18年4月4日（日）

朝来降雨。昨日より引続き降り居たるらし。事務室掃除。手当通知あり。夜分配。9時半頃サイレン鳴り響き、電燈も消火せしめらる。前日の煮しめ腐敗の惧れあり、煮直す。報告物着々片付く。岩尾員別府より電話。汽車の都合にて乗車不可能。明日飯る、一時間遅延の見込みと。次いで森田氏より電報。切符売り切れ乗車不可能、明朝飯るとあり。降雨は夜に入りて歇みし如し。冷氣加わり、寝に入りて容易に暖まらず。

昭和18年4月5日（月）

昨夜、岩尾員別府より電話。切符売渡さず、明朝飯局する旨、森田氏より電報にて同様の意味の通知あり。朝、

冷や飯頂く。7時半に到着の筈なりしミワさん来たらず。9時近く着。皆元気にて幸慶とす。晴天。切手請求。11時頃、印紙守久よりの分、臨時交付し貰ふ。朝、街路は雨に濡れ掃除出来ざりし。栄町局長より推薦の人物、父親に連行、4時過ぎ来る。森田氏母堂も同時に見ゆ。母堂より餅、蒔草等頂く。

昭和18年4月6日（火）

午後より天気崩れ、3時頃より雨となる。朝餅焼き、お粥も一椀頂く。午後4時より胡麻（本部行き、白胡麻二合求め来らる）味噌造る。朝の粥残りを食す。馬鈴薯五百匁程手に入れられたるが、其れを夕食に煮て下さる。坊、余の下駄を穿いて廊下を音高く歩く。午前中ミワさんと出掛けたり。夜は9時前ミワさん、坊が眠らず当惑して余に任せし後を受けて寝せたり。炬燵少し熱過ぎたる様子。前に飛出して困る。事務室には冷氣堪え難きも、4時まで火を須（もち）いず。切手類請求、受取り共、余行く。

昭和18年4月7日（水）

曇り。道路泥濘、掃除せず。午後より降雨。切手類不足せしも請求せず。荒巻ヨシ子、父に連れられ朝来たり。相談所に体格検査にやる。森田さん入学式。母堂に連れられ、昭子さん正昭さん挙家登校。午後販りて活動に行かるとのこと。伊勢さん朝より居続け、荒巻氏もそれまで附いて居る。桜花満開、散れかけし方面もあり。夕方風強く、雨雲吹払ひ、明日晴天を予想されしも、夜半より風歇み再び降雨。坊幾度か外出。

昭和18年4月8日（木）

曇り。切手類請求受取共、余行く。坊や誕生日、鯔飯を造らる。二階にもやる。一日附け昇給発令、各五銭づつ。2時過ぎより坊や昼寝。夕食時、起きて御祝いの席に列す。荒巻ヨシ子、8時より6時まで見習いす。紋平穿いたまま手持ち無沙汰に終わる。

昭和18年4月9日（金）

朝掃除。森田母堂、午前8時帰郷。余、坊やが起きたので着物を着せ居る際、挨拶に来らる。曇り、時々晴れ。室内は冷氣、火なしでは困る位。風多し。朝、昨の残り鯔飯を暖めて頂く。20銭切手10剩り、窓口に遣る。岩尾さん故兄一周忌にて休暇。前日岩尾さんより餡入り餅、坊やへ拾幾つ頂き、今朝我等分配に預かる。

昭和18年4月10日（土）

晴れ、後曇り。伊勢さんの為に別離の夕飯を振舞ふ。味附け飯を炊く。肉は11日売出しと云ふに、此日貰ふことに頼み込み、一人60匁宛て貰ふ。伊勢さん2時頃来局、執務せず。切手請求。5銭切手一万。受取りの為出掛ける途中、坊やを連れて販るミワさんと逢ひ、再び坊やを連れ中津局に至る。木下主事より荒巻員関係調書を貰ひ受け帰る。昭ちゃんの為に、別途井に盛り贈る。伊勢さんより兎玩具を貰ふ。二三円のものらし。夕方より降雨。前田氏、9、80欠損。

昭和18年4月11日（日）

朝来降雨。室内及び事務室掃除す。概要表作成に、午後11時まで費やす。猶未完成にして寝る。道子より小包

にて、東京敏子さん送りの坊の靴送り来る。洋服は修理の上、送付すと云ふ。林檎二軒より求め来らる。一ヶ十銭以上になる。母堂の亡夫の命日とかにて、精進料理にて色々馳走を造らる。

昭和18年4月12日（月）

未明風強く、夜来の降雨を蹴飛ばして、道は次第に乾燥、掃除す。岩尾氏窓口。朝飯は前々日の味飯を頂く。午後3時、放送局員を連れ巖来局。此日、耶馬溪倶楽部にて集金事務打合会開催の由。巖等、退局と同時に夕食を摂る。坊や出張員のチョッキの釦に手を触れ、反響を求むる如かりし。相手は知らぬ振りの態度、無愛嬌の人なりし。若いから無理もないと思ひぬ。前田さんに弁償金補助、5円やる。

昭和18年4月13日（火）

晴れなるも風強く、冷氣甚だし。坊を連れ半時間、駅附近を逍遙す。此の間ミワさん留守仕事し居らる。福岡より小包。坊の洋服、東京より送付ありたるものを送り越す。中に雪舟一罐あり。午後より、福岡行きの小包の梱包に着手す。ワカメ、林檎、蒔蘿草、大根乾し、蒲鉾二、米粉一升等、一貫目あり。普通として発送せり。坊や午後も外出。勝手に出入りし禪脱（こんだつ）の儘とて、事務室出入り口、砂だらけの有様。昼寝させぬ為、夜は7時半頃寝に就く。

昭和18年4月14日（水）

曇り、後次第に晴れ曇り半々。風冷ゆ。朝、入営兵の為に、午後は英霊帰還の為に旗を樹つ。切手代金はミワさ

んに頼み、受領には坊を連れミワさんに行く。葉書一万持来る関係で、一人にては六ヶ敷いから、、、此日にて限度三千五百円突破。五百円近く千分の十となる戦時勤勉手当の外、局長家族の手当では従来請求せずに交付を受けたるが、本月より請求を要することとなり、夫れを含めて作成す。伊勢さん此日、3時の上りで満州に出発。交友多数見送る。余も後から行き、入場券は売らぬのを伊勢さんから貰ふて入場。恰度、伊勢さん母堂が来て居られし座席の傍らに位置を取りしも不思議に感ず。何だか涙が出てならなかった。此日、八幡に一泊の由。帰りに局前で足を、自転車倒れの為に噛まれ、痛傷を与ひらる。何の祟りか。8時頃坊やを寝かす。ミワさん持て剩したるもの。

昭和18年4月15日（木）

晴れ、冷氣強し。乾うどんを茹でて作った夕食の残り（馬肉を軟らかに煮て入れらる）を頂く。お粥も頂く。印紙請求、受取には坊を連れミワさん行かる。午後より、到来の洋服を着せて教会に連行さる。洋服は頗るハイカラに見ゆ。昼寝させぬ為、5時頃ネンネを訴ふ。2時間程睡り、8時頃起き出て容易に睡らず。ミワさん呆れて余を引出す。依然として睡るを欲せざる如し。余も遂に匙を投ぐ。10時を過ぐ。消燈して10時半睡る

昭和18年4月16日（金）

晴れなるも風冷たし。切手類請求見合わす。各種共、概ね充実しあり。坊や、ミワさんに負われて公園地にサーカス看板を観に行き、象を見て来る。猿は居らざりし由。販りて間もなく何れへか失踪、皆捜査し呉る。本町に行

き彷徨し居れる由。洵に油断はならぬと思ひぬ。昨夜夕食の残りトコロを今朝も頂く。薯類を手に入れられたるも珍とすべし。菓子も殿畑に列に加わりて、相当数量求め来らる。道子より手紙。就職に努力するも年令に制せられ、大学も図書室には空席なく、調剤方面にあるも立ちつづけにて身体に悪影響を及ぼす惧れあり。加之、給料も二十五六円にて、電車賃を賄うに過ぎずとて断りたる由。坂本先生を訪問する手筈と云ふ。小包の蒲鋒、ワカメなど土産にする由。敏子さんからも手紙来。50円自分支出、百円は主人より立替貰ひ山根氏を訪ふ。各百円差上ぐ。中尾君位、幸便な人は少ないと謂われたとあり。表向き弁護せしに非ずして、百円の謝金は高いと思ひぬ。先方では幸便に対する感謝料も加算して居るらし。夕方湯に坊を連れ行かれ、林檎を磨り与え、7時半より寢床。此の儘起きず。午前2時、栄町局裏工場長屋より出火、一棟全焼の旨、前田さん咄さる。午後より栄町局に見舞に行き、細君に逢ふて見舞す。

昭和18年4月17日（土）

晴れ、風寒し。坊や外出、秀雄ちゃんと遊ぶも概ね共同するを得ず。勝手の振舞いに出づ。夕飯には更に多数のお握りを造らる。明日、大貞公園行きに持参せらるらし。外に煮しめとして里芋、人参、干し大根等あり。此の大根乾しも捨て難き味あり。夜、林檎を折半してミワさんと頂く。坊や昼寝せず、夜早く寝る。

昭和18年4月18日（日）

曇り。次第に積雲濃厚を加え、午後より降雨。下関市無集配通信手（本村）中野フサエ、外三名見学に見える筈

とて、朝飯も7時50分頃より認め、定時には出勤せり。午前中数回迎えに行きたるも、夫れらしき者見えず。然るに大貞公園への出発時刻逼（せま）り、余坊に仕度して遣る。森田さん、昭ちゃん連れて一緒に行かる。10時の汽車なりし。出発後天候恠（あや）しくなり、午後より遂に降り出す。一行は午後3時帰宅。雨脚漸く滋（しげ）し。坊や大喜びにて駈け廻り、鯉に餌（麦を弾かせたもの）を求めて鯉に与ふと。大貞駅に着して睡る。こちらに来ても約1時間余寝て居る。4時夕食、冷飯にてアサリ汁を副食物とし頂く。次いで湯に行かる。坊や夕食喜びて二椀を重ぬ。湯より販り、林檎汁して遣る。1個で不足、リンゴリンゴと叫び、遂に2個を平らぐ。10時近くまで起きて居る。夕方雨歇む。

昭和18年4月19日（月）

6時頃より降雨。概要表調製、今一息の処。年金貸付金は保険貸付金の欄違いあり。困ったことになれり。猶、戦時手当3月分打切り報告を、1ヶ月分合算の為、自然遅延の姿となり、始末届けの提出方附箋来照あり。昨日訂正と共に始末届けをも送付す。午後より晴れ。道路も乾く。夕飯4時前済ます。坊余の後ろに廻り負はれてあちと指す。サーカスの公園地に連れ行く。興業は終わららし。象、鼻を動かし少時も休止せず。ライオンも檻の中に居る。馬も六七匹繋がれて秣（まぐさ）を食べて居る。公演地内の動物園を一巡して帰る。途中背中で小便し事務服を濡らす。此日、大逓信記念日。小寺局長、普通局会議に出席の為、10時熊本に行かる。余、坊を連れ局前に居りし際通過。午前11時半より切手類受取に、坊を連れミワさんも行かる。帰りはミワさんと公園地に。

木下主事のみ一人室内にあり。他は昼飯に食堂に行き不在。木下氏と話す。午前晴れ、午後より曇り。更に夕方より再び晴れる。月漸く清く、気温も亦幾分上昇。夜、炬燵を廃す。概要表発送せり。其の代わり常務手遅れを来たす。

昭和18年4月20日（火）

大いに暖かくなり、此日より股火も加減す。前日来の冷気は風邪を招きたるらし。鼻水出づ。切手請求にミワさん払込みに行かる。受取りは例に依り、坊を連れてミワさんと行く。法蓮坊、日蓮上人奉讃会あり。それに坊や必ず参詣す。二階に上がる。木下主事のみ留守さる。他は昼食らし。坊や上り来る。少時俟つ。局、昇格せるやの咄あり。後、新聞を見れば通信書記にて高等官六、七等に叙せらるるもの中津小寺氏の外、後藤寺古野氏、其の他多数あり。今回の優遇案に由るものなるべし。坊や公園地に行き、余切手類持ちて販る。夕食、牛肉を今日求められ食膳に上さる。曇り。

昭和18年4月21日（水）

前田さん病氣らし。時間になるも不来。岩尾さん担当さる。貯金規則、及び取扱い規程改正。証券保管事務を簡易化す。不取敢、法規の訂正をなす。弁当屋松本入営に付き、明日貴船神社に詣り、7時の出発を歓送の予定。坊、禪脱（こんだつ）で外出。活動力熾烈。一兩日来、撞球長谷川氏前まで掃除す。月漸く清し。

昭和18年4月22日（木）

朝来快晴。6時神詣り後、駅に出征軍人を、特に松本大

八郎氏を送る。ミワさんに頼む、切手請求。ミワさん行って来らる。午後、例に依りミワさん坊やを連れて行かる。余もお供す。往復とも負はれた儘、飯局。

昭和18年4月23日（金）

朝来曇り。4時頃より次第に晴れ。切手類に不足のものあるも請求せず。小野光夫、貯金通帳再度請求したる。小野章をミワさんに訪ねて貰ひたり。同人は二の丁に、刑務所筋向いに居ること判明。本日出局せしに付き、始末書の提出を通告せり。証券保管再開せしむ。

昭和18年4月24日（土）

靖国神社臨時大祭。森田さん、昭子さんを伴に正午近く帰郷。昨日、昭子さん単身帰宅の筈なりしも、24日行事を済まして自由行動を認め任意欠席するを得ず。之に反する者は欠席と看做すと云はれ、飯郷断念を忿慨。森田さん今日連行となりたるらし。午後より団子造る。玄米粉は古き品は酸味あり。之に重曹を交えたるに、中和し酸味消滅したるも、味は美味ならず。何れも砂糖の溶液に入れて、再度煮て食す。

昭和18年4月25日（日）

曇り、後晴れ。金光教大祭。午後1時半、母堂も一緒に参詣に行かる。昨坊、洋服着用写真撮しに行く。道子の希望らし。午後4時頃教会より飯り、小野章氏を訪ふて始末書を差措き帰宅さる。森田さん夕方飯らる。巖来局。28日挙式の旨、申出づ。此の夕道子に葉書を書き、中途にして寝る。

昭和18年4月26日（月）

襦衣類、昨洗濯して頂く。大体乾燥。巖来る。三谷の伯母、病気の模様につき咄す。道子、三谷に誰か看病に行けと注意す。巖より、ミワさんの参列を予期せざる如き遣り方を遺憾としたるが、慌てて取消し、是非臨席を希ふ旨改めて申出たり。嫁の思想堅固なるを立証する積もりにてか、10日程前、八重子が来て先生に面会した際、先生より子供の3人も居りて人の妻となること容易ならず、やめるなら今と謂われたり云々。余大いに斯く態度の誤れるものなることを陳べて、左様なことを今更反問する先生の人格を卑下したるが、巖も作為的言辞なることを詫びたるが、馬鹿に附ける葉なきことを痛感せり。小野章氏、始末書を携行。次いで富士紡小川つよ子、監督に連行。余始末書を造りて渡す。此夜、小野氏の報告文にて10時半を過ぐ。坊や余に馬になれとて聞かず。11時に及ぶ。坊や寝入りて、再び仕事を続行す。切手請求に坊やミワさんと受取りに行く。

昭和18年4月27日（火）

午前4時前後、豪雨。20分間程降る。後歇み、午後より快晴。今日、印紙のみミワさんに行って貰って、代金を納付。11時半より坊を連れミワさんも来らる。小野氏の回答は午後発送せり。8時頃理髪屋に行く。ミワさんも来たり。自らも剃りて貰はる。小川つよ監督に連行。始末書に依り、逓信局への回答を済ませり。ごたごたの為、証券保管に対する改定様式に準備せず。窓口へ引渡し後、発見せしも、其の儘送付せり。小川つよ分は、此日報告を済ます。

昭和18年4月28日（水）

午前中大体晴れ。午後1時よりメソジスト教会にて挙式の由なるが、零時半頃より始めたき由。先方は十名参列。11時教会に乗り込み居れる由。巖来たり待ち居る。此日切手請求見合わす。乃ち零時30分、巖とミワさんと共に出発。花嫁の髪直しする髪結いが見えぬので手間取り、1時過ぎより漸く開式。30分計りにして終了。此の間、国民儀礼、国家奉唱等あり、讃美歌を歌ふて式を終ふ。別室にて披露宴を催す。余の挨拶ありて酒一巡の後、帰局す。後刻タクシーにて花嫁挨拶に来る。駅より荷物を受取り家に販れる如し。天候落ち目となる。

昭和18年4月29日（木）

天長節。夜半雨、朝に及ぶ。11時頃ミワさん坊を連れ十円を贈る。午餐を馳走されて販らる。3時近し。途中道草とりたるらし。天気恢復。午後道路概ね乾く。

昭和18年4月30日（金）

朝掃除出来たるが、塵埃（じんあい）山積み。市当局の遣り方に遺憾あり。豚肉売出し。鰯市場に出づ。肉屋も多少影響を受け、50匁配給に対し百匁呉る。上本氏手伝って居ると、庄花屋主人区長を訪ふて、貯金保険等に一段の理解を要望する処あり。毎月28日の常会に出席方申出あり。